

防災だより

平成26年6月第24号
下田市地域防災課防災係
Tel.0558-36-4145

6月1日～30日は「土砂災害防止月間」です。

6月から7月にかけては、日本列島で梅雨の季節に入ります。

土砂災害の危険性を改めて考えるとともに、日頃の備えについて考えましょう。

◆土砂災害防災訓練を実施しました。

平成26年6月1日（日）、落合地区の自主防災会で土砂災害に対する警戒避難体制の強化と防災意識の高揚を図るため、地域住民が一体となって訓練を行いました。

災害時には情報伝達、的確な避難勧告等の発令、避難行動が必ずしもスムーズに行われるとは限りません。特に災害時要援護者といわれる高齢者の被災率が高いため、災害時要援護者に対する警戒避難体制の整備や避難支援などが重要な課題となっています。



落合区で行われた訓練の様子。訓練には、住民約30人が参加し、避難訓練、土砂災害講座、ハザードマップの作成などを行いました。



土石災害とは

土石災害は、大雨や地震などが引き金となって、山やがけが崩れたり、水と混じり合った土や石が川から流れたりして、家や畑の財産の被害を及ぼしたり、時には生命まで奪ったりする危険な自然災害です。主なものに、地すべり、土石流、がけ崩れがあります。

土石災害の前には、前兆現象が起こることがあります。このような現象に気づいたら、最寄りの静岡県土木事務所又は、下田市役所に通報し、早めに避難をしましょう。

土石災害発生前に前兆現象は必ず起きるとは限りませんので、現場災害の確認・調査は必要ありません。大雨の時は、危険な箇所（河川、用水路、がけ地など）へは近寄らないでください。

※出典（内閣府）

種類		特徴	主な前兆現象
がけ崩れ		斜面の地表に近い部分が、雨水の浸透や地震等でゆるみ、突然、崩れ落ちる現象。崩れ落ちるまでの時間がごく短いため、人家の近くでは逃げ遅れも発生し、人命を奪うことが多い。	○崖にひび割れが出来る。 ○小石がバラバラとおちてくる。 ○崖から水が湧き出る。 ○湧き水が止まる。 ○湧き水が濁る。 ○地鳴りがする。
地滑り		斜面の一部あるいは全部が地下水の影響と重力によってゆっくりと斜面下方に移動する現象。土塊の移動量が大きいため甚大な被害が発生。	○地面がひび割れ、陥没。 ○がけや斜面から水が噴き出す。 ○井戸や沢の水が濁る ○地鳴り・山鳴りがする。 ○樹木が傾く。 ○亀裂や段差が発生。
土石流		山腹や川底の石、土砂が長雨や集中豪雨などによって一気に下流へと押し流される現象です。時速20~40km という速度で一瞬のうちに人家や畑などを壊滅させてしまいます。	○山鳴りがする。 ○急に川の水が濁り、流木が混ざりはじめる。 ○腐った土の匂いがする。 ○降雨が続くのに川の水位が下がる。 ○立木が裂ける音や石がぶつかり合う音が聞こえる。

土石災害から身を守るために

- 住んでいる場所が「土石災害危険箇所」なのかどうか確認。
- 雨が降り出したら土石災害に注意する。
- 土石災害警戒情報が発表されたら早めに避難しましょう。
- ハザードマップなどで、危険な場所や避難所を確認しておきましょう。避難する道に危険な場所がないか調べて、避難する道順を決めておきましょう。
- 非常持ち出し袋を用意しておきましょう。
- 情報を正しく理解しておきましょう。